

2020年8月9日(日)朝10:10
8月第2共同主日礼拝式説教

聖霊降臨節第11、役員会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**群衆への深い憐れみ**(14～)

聖書:マタイ 14章13～21節

<口語訳>

新約聖書23～ 頁

マタイ 14章13～21節

<新共同訳>

新約聖書28～ 頁

マタイ 14章13～21節

<新改訳第3版>

新約聖書28～29頁

マタイ 14章13～21節

<塚本訳>

新約聖書111～ 頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。
- ◇本日は**マタイ14:13～21節**の「**群衆への深い憐れみ(14～)**」についての主の使信に心とめます。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、舟でガリラヤ湖を渡られましたが、群衆が押寄せ、夕刻になったので、弟子たちに食べ物を与えるように命じられました。
- ⇒弟子たちが、集められたのは、パン5個と魚2匹でした。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「天を仰いで、讚美の祈りを唱え」(19)、パンと魚を裂き、弟子たちにお与えになった。
- ⇒群衆は、満腹したのです。
- ⇒群衆の数は、女性と子供を除いて、5000人でした。
- ⇒12の籠に一杯になるパン屑が集められた。

本論；

◇本日、**マタイ書14:13～21節**から主の**使信**に**思い・心**νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ14章13～21節**；使徒**マタイ**は、「**群衆への深い憐れみ**(14～)」を通して、「**神(天)の国**」の隠されている「**神の真理・真実**」が、示されていると、あかししています。

◇**14:1～20節**；塚本訳◆**洗わぬ手**

「13 イエスは答えられた、「わたしの天の父上がお植えにならないものは皆、引き抜かれる。

14 あの人たちを放っておけ。盲人の手引をする盲人だ。盲人が盲人の手引をすれば、二人とも穴に落ちよう。」

15 ペテロが口を出して言った、「さっきの譬を説明してください。」

16 イエスは言われた、「あなた達までがまだ悟らないのか。

17 すべて口に入るものは、腹を通して便所に落ちる(から、人をけがさない)ことが解らないのか。

18 しかし口から出るものは心から出るので、そちらは人をけがす。

19 心から悪い考えが出るからである。人殺し、
姦淫、不品行、盗み、偽証、悪口(など)。

20 人をけがすのこれで、洗わぬ手で食事をす
ることは人をけがさない。」

◆**マタイ14:21;カナンの女**

21 イエスはそこを出て、ツロとシドンとの地方に
引っ込まれた。と、**使徒マタイ**は主のことばを
語っています。

◇**マタイマタイ14:13~21節**；「**御子イエス・
キリスト様**」は、舟で、ガリラヤ湖を対岸に
渡たれましたが、群衆は押寄せて来たの
です。

⇒主は、大勢の群衆を憐れみ、夕刻になって
いたので、弟子たちに、何か食べ物を与える
ように命じ、5個のパンと2匹の魚がもって
来られました。

⇒主が、天を仰いで、祈り、これを裂いて、弟子
たちに渡されると、群衆は、食べて満腹した
のです。男の人だけで、5,000人でした。

⇒これは、主の求めに応じて、手渡す物が
少なくても、主は、祝福し、大勢の人を養える
ことを弟子たちに教えて下さったのです。

- ⇒先週、聖餐式を守りましたが、パンと杯で主の食事に与りました。食事としては、質素ですから、満腹することはありません。
- ⇒しかし、聖餐の意味を味わう時、心は満ち足りるのです。それは、主が、私たちの罪のために死に、甦って下さったことを知り、確実に主の甦りに与れる約束を確認できるからです。
- ⇒5000人の給食は、聖餐ではありませんが、主の祝福のもとにあることは、主の恵みを示しています。
- ⇒これを論理的に説明することは、不可能です。
- ⇒しかし、確信をもって言えることは、主の手に渡されたものは、祝福されるということです。また、心に満足を与えて下さるということです。
- ⇒死が怖くない人は、いません。復活を経験され、ひとりひとりの復活を約束された主が、**聖霊**によって、心に内住され、常に共にいてくださるので、慰めです。
- ⇒人のことばは、時に棘があり、苦しめます。主のみことばは、決してやさしいことばかりではありませんが、そのことばには、慰めがある。

⇒主を信じて、すべての病が癒されるとは、限りません。しかし、この病を負うことによって、弱さを知ることができるので、身を低くして、助けを求めることができます。

⇒【新改訳2017】Ⅱコリント 1:6

私たちが苦しみにあうとすれば、それはあなたがたの慰めと救いのためです。私たちが慰めを受けるとすれば、それもあなたがたの慰めのためです。その慰めは、私たちが受けているのと同じ苦難に耐え抜く力を、あなたがたに与えてくれます。

結論；

◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。

◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。

◇本日は**マタイ14:13～21節**の「**群衆への深い憐れみ**(14～)」につき主の使信に心とめます。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、舟でガリラヤ湖を渡られましたが、群衆が押寄せ、夕刻になったので、弟子たちに食べ物を与えるように命じられました。

⇒弟子たちが、集められたのは、パン5個と魚2匹でした。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「天を仰いで、讚美の祈りを唱え」(19)、パンと魚を裂き、弟子たちにお与えになった。

⇒群衆は、満腹したのです。

⇒群衆の数は、女性と子供を除いて、5000人。

⇒12の籠に一杯になるパン屑が集められた。

⇒【口語訳】 IIコリント 6:10

悲しんでいるようであるが、常に喜んでおり、
貧しいようであるが、多くの人を富ませ、何も
持たないようであるが、すべての物を持っている。